



# 2021年3月期 第1四半期 決算説明会

2020年8月7日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション



## 2021年3月期 第1四半期決算状況

1. 概要	4
2. 売上高・利益	5
3. セグメント別業績	7
4. 貸借対照表	13
5. キャッシュマネジメントについて	14
6. トピックス	15

## 2021年3月期 業績予想

1. 業績予想の前提	18
2. 売上高・利益	20
3. セグメント別業績	22
4. 設備投資・減価償却費・研究開発費	28
5. コーポレート・ガバナンス	29

## サンケン電気（株）の社会システム事業を譲受

1. 譲受の概要	31
2. 主要な取り扱い製品（産業電池電源製品）	32
3. 当社の中長期的な考え方と市場環境	33
4. 譲受の目的	34
5. 期待するシナジー効果	35
6. 会社概要	36

# 2021年3月期 第1四半期決算状況

# 1. 概要

---

- 世界経済は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、景気が大幅に悪化しました。段階的に経済活動を再開していくものの、現在も世界各国で感染拡大を続けており、先行き不透明な状況が続いています。
- 売上高は、主としてプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池や、国内外の自動車新車向け鉛蓄電池における販売減少などにより減少しました。
- 営業利益および経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記影響により減少しました。

## 2. 売上高・利益

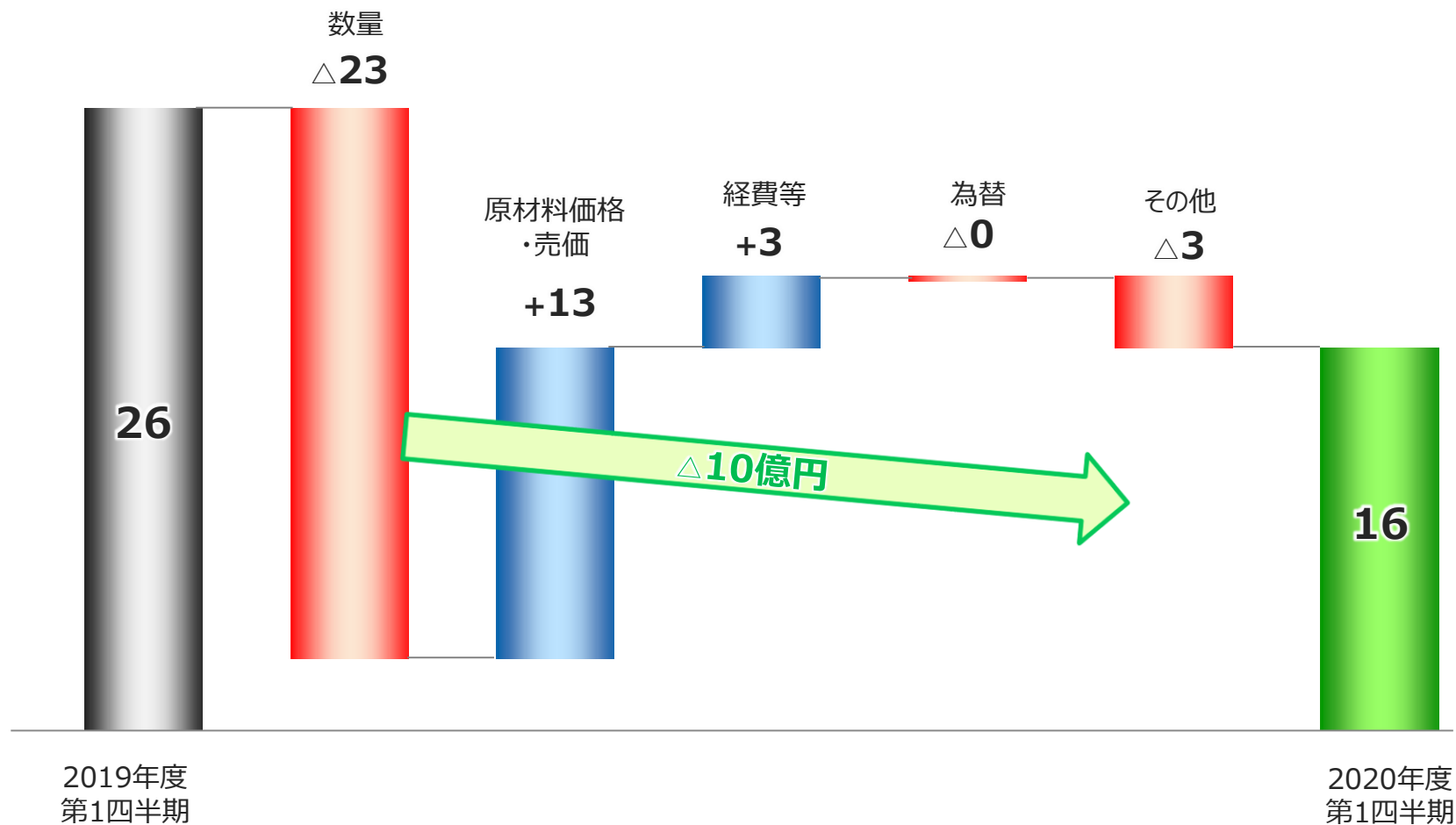
(億円)

	2019 年度 第1四半期	2020 年度 第1四半期	増減	(前期比)
売上高	901	764	△137	(△15.2%)
営業利益 (営業利益率)	20 2.3%	10 1.3%	△10 △1.0P	(△50.9%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	26 2.9%	16 2.1%	△10 △0.8P	
経常利益	29	17	△12	(△40.9%)
特別利益	0	0	△0	
特別損失	1	1	+0	
税前四半期純利益	28	16	△12	
法人税等	8	12	+4	
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	4	△2	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	15 1.6%	△0 △0.0%	△15 △1.6P	
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	20 2.3%	5 0.7%	△15 △1.6P	
国内鉛建値 (万円/t)	27.25	24.28	△2.97	
L M E (US\$/t)	1,886	1,670	△216	
為替 (円/US\$)	109.67	107.38	△2.29	

## 2. 売上高・利益

### 営業利益増減要因 (前年比較)

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

### 3. セグメント別業績

(億円)

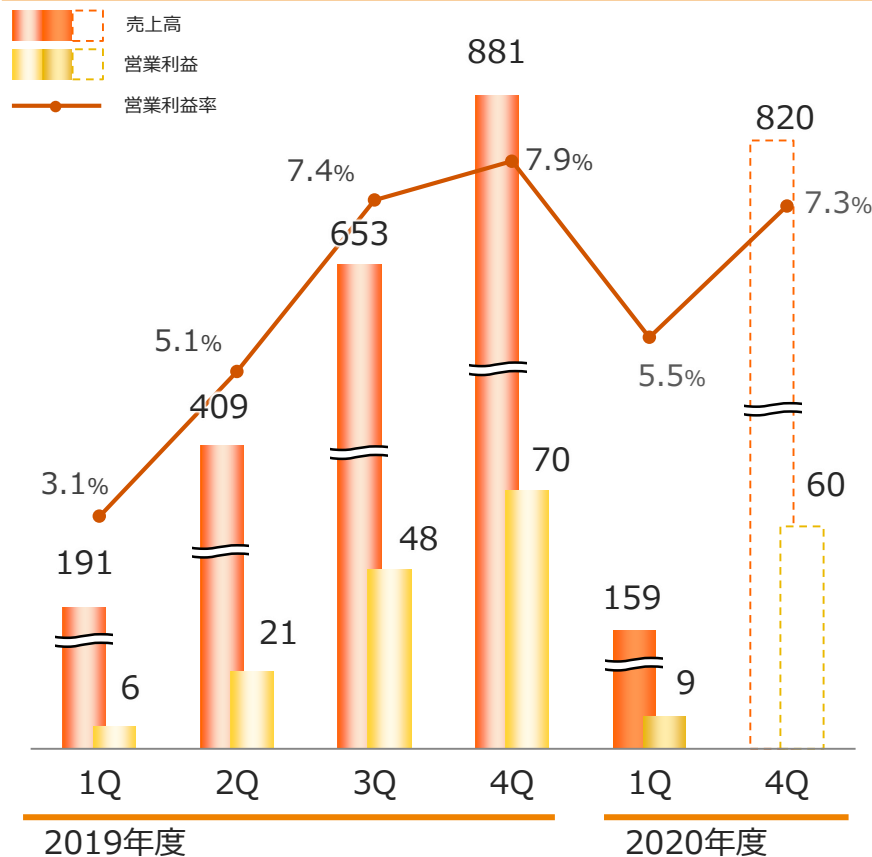
		2019 年度 第1四半期		2020 年度 第1四半期		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	191	6 (3.1)	159	9 (5.5)	△32	+3 (+2.4)
	海外	409	27 (6.6)	368	22 (5.9)	△41	△5 (△0.7)
産業電池電源		156	△2 (△1.0)	147	△3 (△2.2)	△9	△1 (△1.2)
車載用リチウムイオン電池		103	△8 (△7.8)	47	△12 (△25.2)	△56	△4 (△17.4)
その他		42	3 (6.0)	43	0 (0.4)	+1	△3 (△5.6)
合計		901	26 (2.9)	764	16 (2.1)	△137	△10 (△0.8)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

### 3. セグメント別業績（自動車電池（国内））

## 自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率



## 減収増益

（億円）

2020年度 第1四半期商況

- ▶ 新型コロナの影響により自動車生産台数が大幅に減少したため、新車向け販売数量は減少、加えて鉛価格下落に伴って販売価格が低下
- ▶ 公共交通機関を避けた自家用車の稼働増や、宅配業者等の稼働増により、補修向け販売数量は増加

### 増減益要因

数量	△2
鉛価格・売価	+4
合理化・経費等	+1

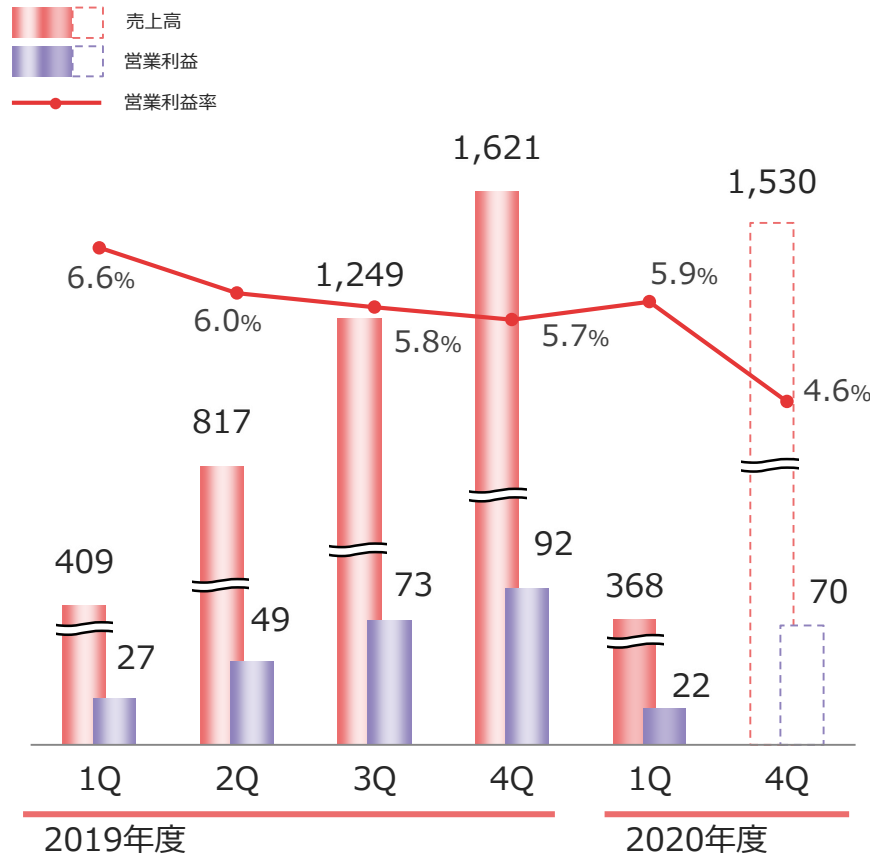
（注）営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。



### 3. セグメント別業績（自動車電池（海外））

## 自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率



## 減収減益

(億円)

2020年度 第1四半期商況

- インドネシアやタイを中心に東南アジアで新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、自動車用、オートバイ用ともに新車向け販売数量は減少
- 中国では自動車新車向け販売数量は回復傾向、豪州では制限措置の段階的な緩和への期待から、自動車用補修向けを中心に販売数量は増加
- 鉛価格下落に伴う販売価格低下の影響
- 円高による為替換算の影響

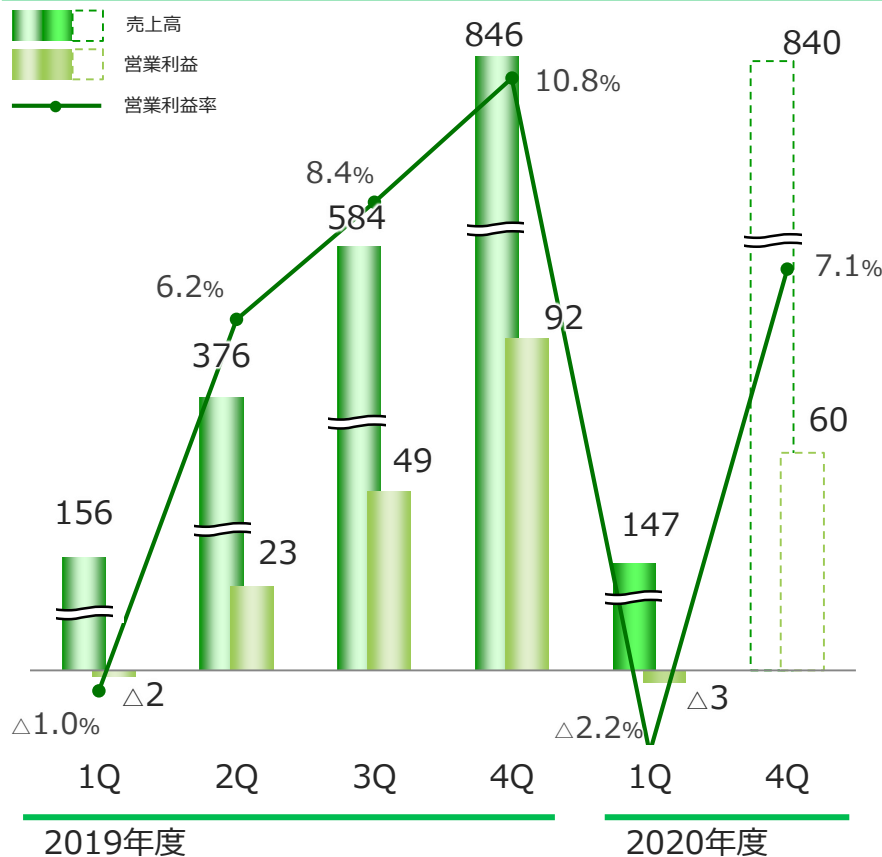
## 増減益要因

数量	△8
鉛価格・売価	+4
合理化・経費等	△1
為替	△0

### 3. セグメント別業績 (産業電池電源)

## 産業電池電源

売上高・営業利益・利益率



## 減収減益

(億円)

2020年度 第1四半期商況

- 国内は通信事業者向け電源装置が一巡したことに加えて、新型コロナウイルスの影響によりフォークリフト用鉛蓄電池の販売数量は減少
- 海外は中国やタイでフォークリフト用鉛蓄電池の販売数量は減少、北米では電源バックアップを中心とした産業用鉛蓄電池の販売数量は減少

### 増減益要因

数量	△7
鉛価格・売価	+4
合理化・経費等	+2

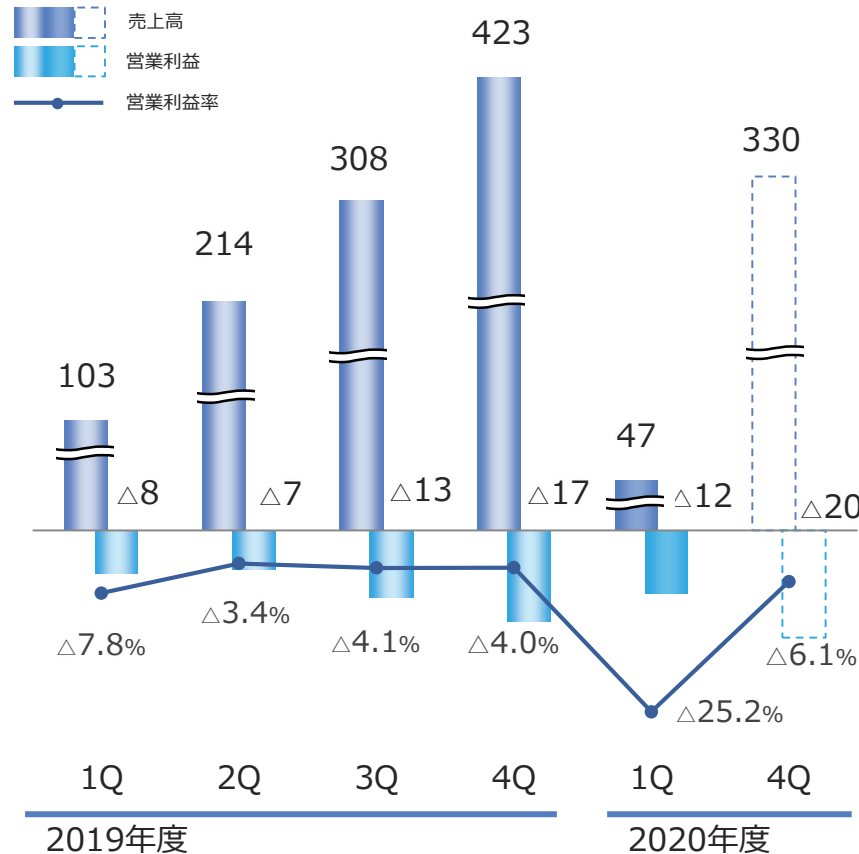
# 3. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

## 車載用リチウムイオン電池

### 減収減益

(億円)

売上高・営業利益・利益率



2020年度 第1四半期商況

- [リチウムエナジージャパン]  
新型コロナウイルスの影響により主要顧客の自動車生産台数が大幅に減少し、プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売は減少
- [ブルーエナジー]  
ホンダ向けは2020年2月発売の新車種への供給により販売は増加、加えて、今期からトヨタ自動車向けの供給開始

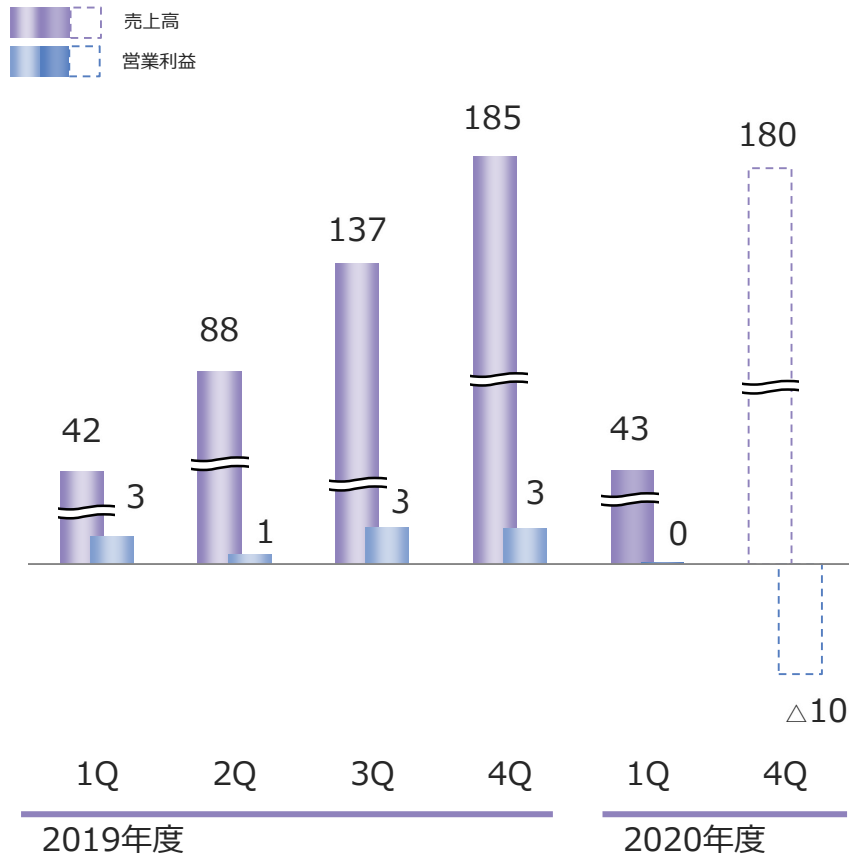
### 増減益要因

リチウムエナジージャパンの販売  
数量減による操業度差損

### 3. セグメント別業績 (その他)

## その他

### 売上高・営業利益



## 増収減益

(億円)

### 2020年度 第1四半期商況

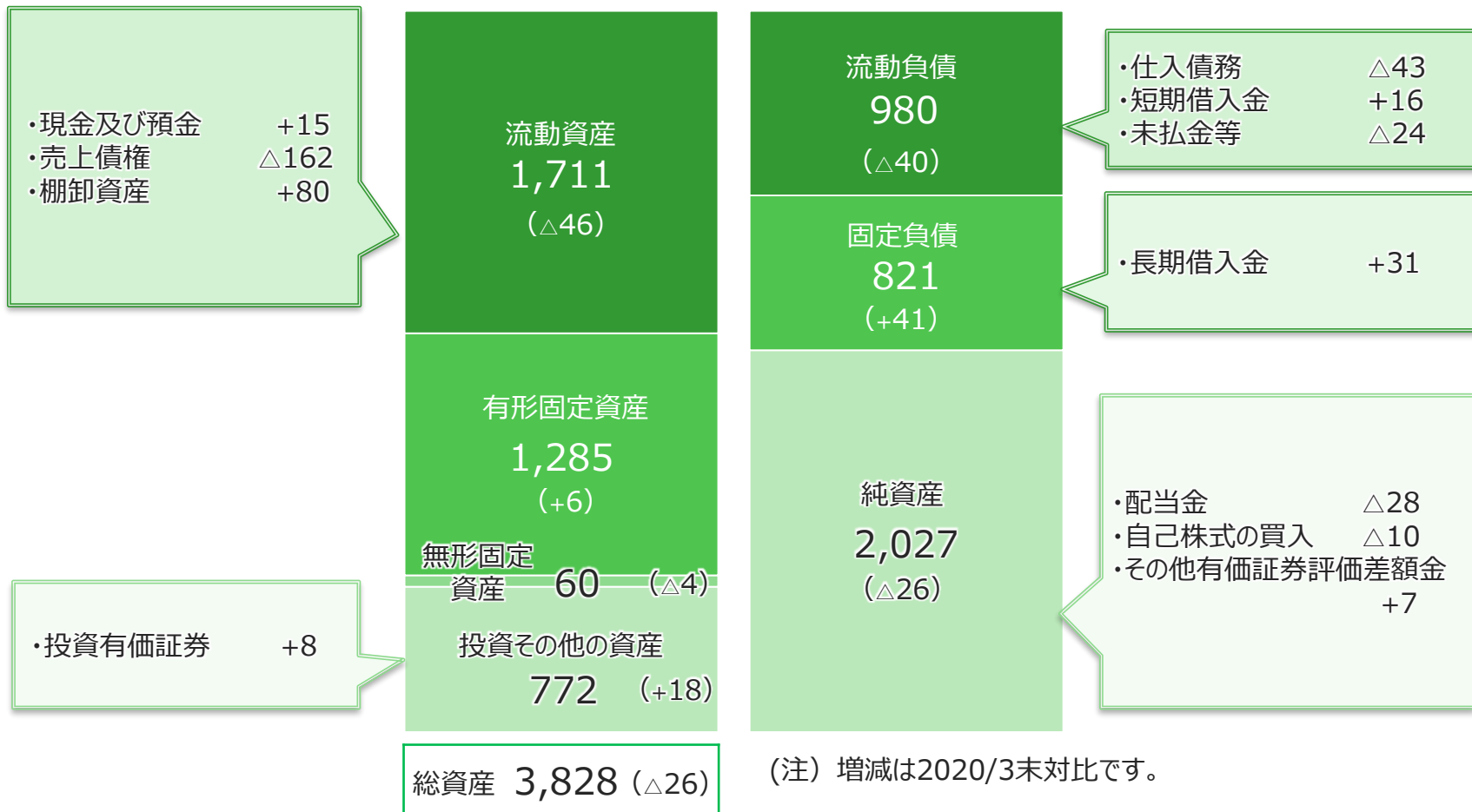
- ▶ 潜水艦用リチウムイオン電池の生産は順調に推移
- ▶ 新型コロナの影響により、航空機用リチウムイオン電池の販売は減少

### 増減益要因

特殊用途向け電池の売上高減少の影響

# 4. 貸借対照表

(億円)



(注) 増減は2020/3末対比です。

	2020/3末	2020/6末
自己資本比率	45.8%	45.4%
借入金総額	645億円	692億円

## 新型コロナ禍における当社の資金状況について

	2018年度 実績	2019年度 実績
格付	A-	A-
キャッシュフロー対有利子負債比率	2.2 年	2.2 年
現金及び現金同等物 (3月末時点)	234 億円	247 億円

(注) 格付けは「長期発行体格付け」として、2018年度は2018年8月、2019年度は2019年8月時点公表の格付け。

### 新型コロナ禍での資金対応

**短期資金：** コミットメントライン 300億円 を含む合計 1,000億円 近くの借入枠

**与信管理：** 顧客、サプライヤーなど取引先についての情報収集を徹底し、急な貸倒などのリスクを低減



新型コロナ禍においてもコミットメントラインには手を付けずに、今後の急な資金需要にも対応可能

### 資金課題

事業の成長のための長期資金の確保が喫緊の課題



メインバンク2行から50億円/4年の長期借入を実施

## トヨタ自動車のハイブリッド車に初採用



トヨタ自動車「ハリアー」

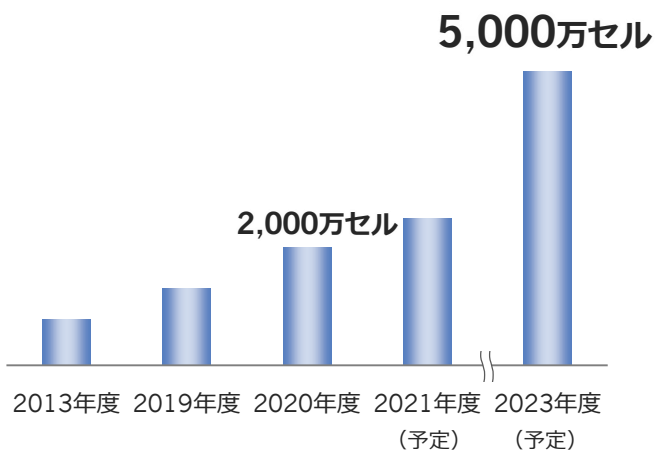


「EHW4S」セルとモジュール

当社のHEV用リチウムイオン電池がトヨタ自動車  
で初めて採用

- ・ ホンダ向けにハイブリッド車120万台以上の電池を安定的に供給してきた豊富な実績
- ・ 顧客要求に応える高度な技術力

### ブルーエナジー生産能力の増強

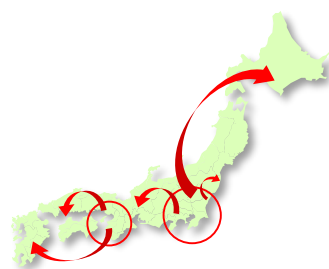


### 当社の戦略

燃費規制の厳格化が進む中、日系自動車メーカーのHEV需要に対応できるように生産能力を拡大

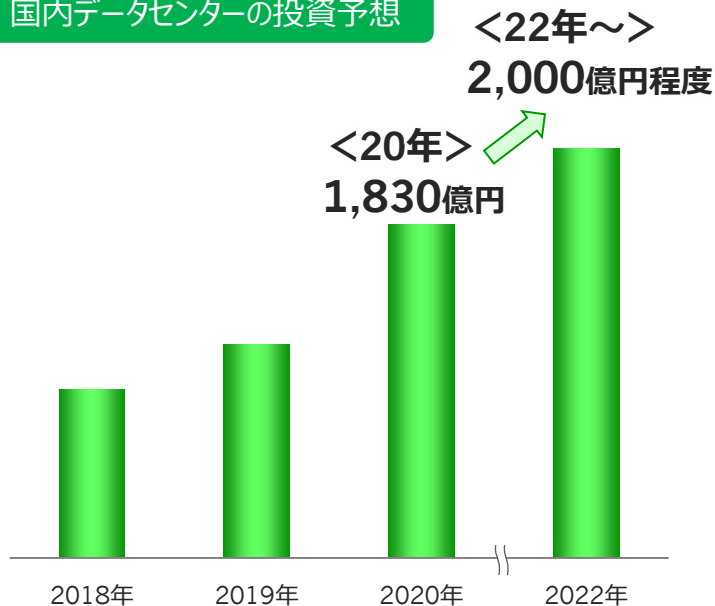
- ・ 引き合いに合わせた生産能力の増強でリスクを最小化
- ・ 更なる受注の獲得のために受注活動を強化

## データセンター需要と戦略



大規模災害を契機に  
関東・関西に  
集中していた  
データセンターを  
地方に分散化する  
流れが加速

国内データセンターの投資予想



※出典：IDC Japan「2019年6月18日 国内データセンター建設投資予測を発表」、「2020年7月7日 国内データセンター建設投資予測を発表」より（一部推定）

さまざまな要因からデータセンター需要が好調に推移

- ・ 災害の激甚・頻発化からのBCP(事業継続計画)やDR(災害復旧)対策
- ・ AI・IoTやDX(デジタルトランスフォーメーション)によるITサービス拡大
- ・ 働き方改革によるテレワークの増加やネット通販の増加などによるサーバーへの負荷の増加



### 当社の戦略

社会を支えるインフラにバックアップ用電池電源システムを安定供給

- ・ 豊富な製品ラインアップで顧客ニーズに対応
- ・ 製品開発から保守メンテまで一気通貫な体制



# 2021年3月期 業績予想

# 1. 業績予想の前提

## 地域別の足元状況

	地域別の足元状況
日本	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 新車メーカーの生産状況については徐々に戻りつつあり、一部のメーカーを除いて、計画値並みに回復</li><li>➤ プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池については生産回復に遅れが見られるが、ハイブリッド車用リチウムイオン電池は納入車種の販売が好調</li></ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 自動車新車向け販売は回復傾向だが、自動車補修向けとフォークリフト用電池で回復の遅れが見られる</li><li>➤ 自動車向けの販売状況についてはほぼ計画水準まで回復</li><li>➤ フォークリフト用電池の販売については9割程度に留まる</li></ul>
東南アジア	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ インドネシアやタイを中心に自動車用、オートバイ用ともに国内新車向け販売が減少していたが、インドネシアで欧州向け輸出の回復傾向が見られる</li><li>➤ タイのフォークリフト用電池の販売については6割程度に留まる</li><li>➤ 台湾はコロナの影響が軽微だったこともあり、好調を維持</li><li>➤ ベトナムはコロナの影響は軽微で、オートバイ用は依然として好調を維持</li></ul>
欧州	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 自動車用、オートバイ用ともに販売好調で、産業用についても顧客からの受注が再開している</li><li>➤ 欧州各販売拠点の状況としては計画対比を越えるほど好調</li></ul>
北米	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 産業用を中心に販売の減少が継続</li><li>➤ 自動車用、オートバイ用の販売状況はほぼ計画水準に回復、産業用は8割程度に留まる</li></ul>
豪州	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 社会活動制限が段階的に緩和されることを見越して、自動車電池顧客が全般的に在庫を積み増しており、それにより自動車補修向け販売の好調が継続</li></ul>

# 1. 業績予想の前提

## 当社における想定

- 当連結会計年度末にかけては、経済の回復に伴い当社各拠点の生産及び販売活動が正常化すると想定

		セグメント別の想定
自動車電池	国内	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 新車向け販売については上期は減少するが、下期は前年並みに回復する見込み</li><li>➤ 高付加価値のアイドリングストップ車用電池を中心に補修向け販売増の見込み</li></ul>
	海外	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 主としてインドネシア、タイで前年より大きく減少</li><li>➤ 自動車新車向けやオートバイ向けについては前年対比で減少の見込み</li><li>➤ 自動車補修向けについてはインドネシアを除く全てで販売増の見込み</li></ul>
産業電池電源		<ul style="list-style-type: none"><li>➤ フォークリフト用電池、産業用電源の販売が前年対比で減少の見込み</li><li>➤ 北海道の大規模風力発電案件による減益はあるものの、新たなビジネス領域を拡大</li></ul>
車載用リチウムイオン電池		<ul style="list-style-type: none"><li>➤ リチウムエナジー・ジャパンの主要顧客向けプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池が減少</li><li>➤ ブルーエナジーではホンダ新車種向けが通年で寄与することに加えて、トヨタ向けが増加</li></ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 航空機用リチウムイオン電池の販売減少</li><li>➤ 潜水艦用リチウムイオン電池は順調に生産し安定的に貢献</li></ul>

## 2. 売上高・利益

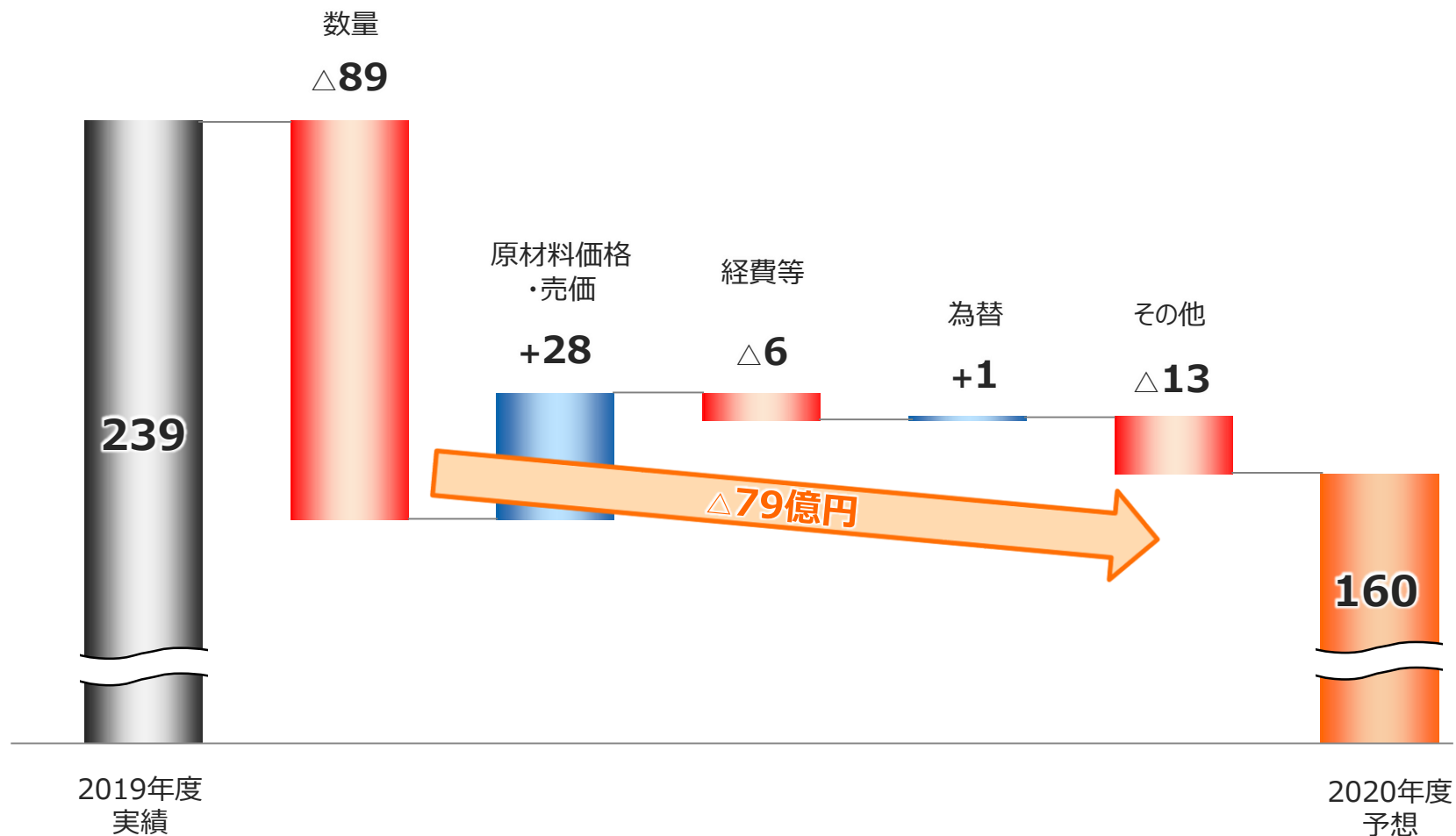
(億円)

	2019 年度 実績		2020 年度 予想		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,904	3,956	1,700	3,700	△204	△256
営業利益	75	217	20	140	△55	△77
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	87 4.6%	239 6.1%	30 1.8%	160 4.3%	△57 △2.8P	△79 △1.8P
当期純利益	48	137	0	60	△48	△77
のれん等償却前当期純利益 (のれん等償却前当期純利益率)	59 3.1%	159 4.0%	10 0.6%	80 2.2%	△49 △2.5P	△79 △1.8P
ROE (自己資本利益率)	-	9.0%	-	-		
年間配当金	15円/株	50円/株	0円/株 (予想)	35円/株 (予想)		
自己株式買入額 (次年度予定額)	-	15	-	-		
総還元性向	-	34.9%	-	-		
国内鉛建値 (万円/t)	27.62	27.56	上期 25.0/下期 27.0			
LME (US\$/t)	1,958	1,950	上期 1,750/下期 1,800			
為替 (円/US\$)	108.67	108.96	105.0			

## 2. 売上高・利益

### 営業利益増減要因 (実績・予想比較)

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

### 3. セグメント別業績

(億円)

		2019 年度 実績		2020 年度 予想		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	881	70 (7.9)	820	60 (7.3)	△61	△10 (△0.6)
	海外	1,621	92 (5.7)	1,530	70 (4.6)	△91	△22 (△1.1)
産業電池電源		846	92 (10.8)	840	60 (7.1)	△6	△32 (△3.7)
車載用リチウムイオン電池		423	△17 (△4.0)	330	△20 (△6.1)	△93	△3 (△2.1)
その他		185	3 (1.7)	180	△10 (△5.6)	△5	△13 (△7.3)
合計		3,956	239 (6.1)	3,700	160 (4.3)	△256	△79 (△1.8)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

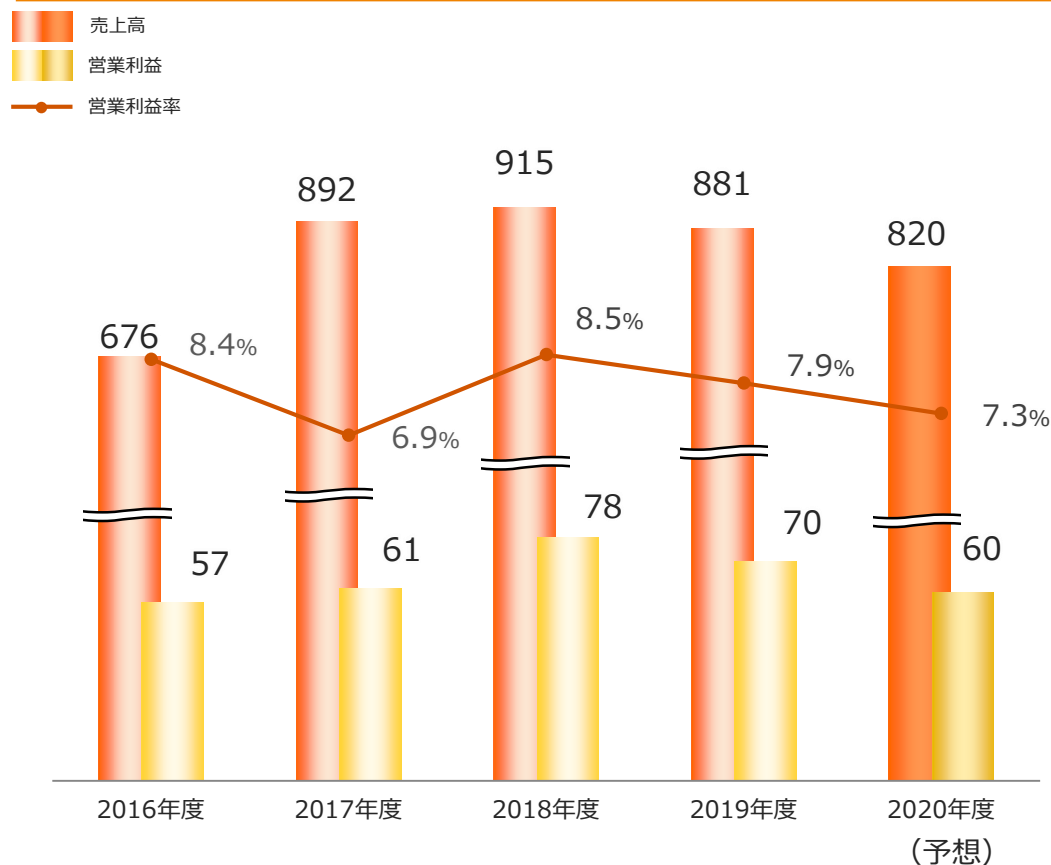
### 3. セグメント別業績（自動車電池（国内））

## 自動車電池（国内）

減収減益

（億円）

売上高・営業利益・利益率



#### 2020年度の取り組み

- 高付加価値製品の領域拡大
- 最適生産体制の構築のための施策立案、AI・IoTを活用した生産性向上

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

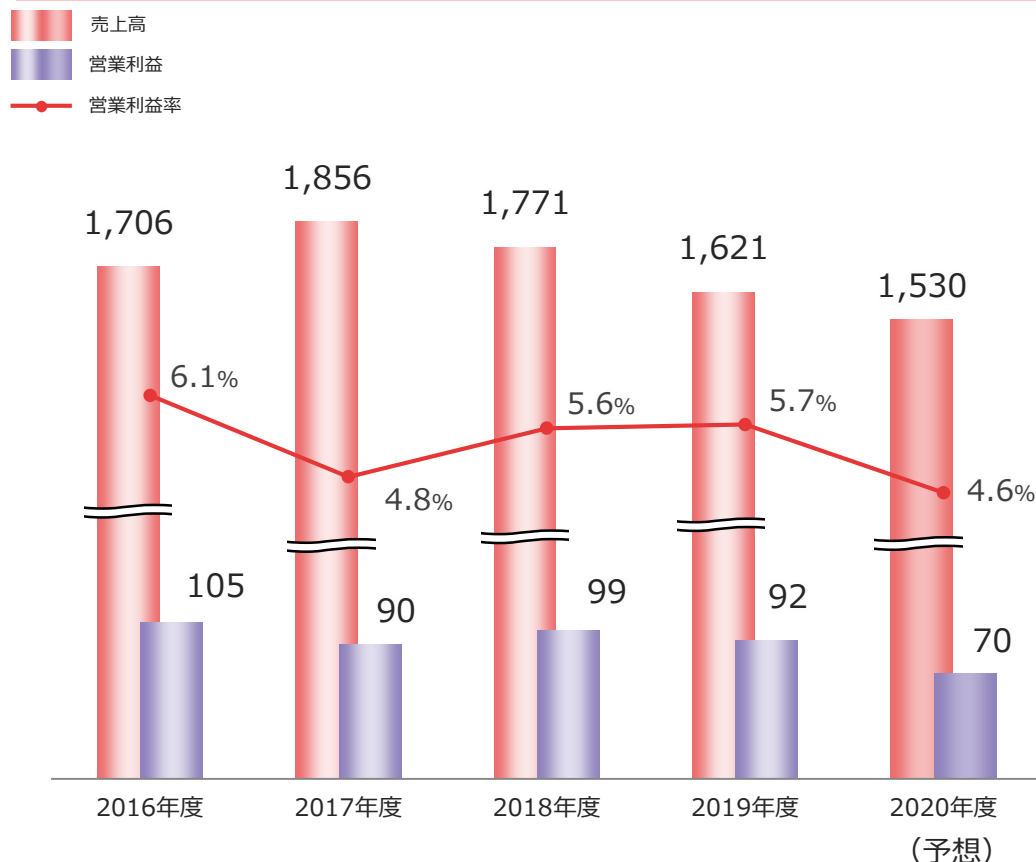
### 3. セグメント別業績（自動車電池（海外））

## 自動車電池（海外）

## 減収減益

（億円）

売上高・営業利益・利益率



### 2020年度の取り組み

- 市場ごとの顧客ニーズに合った新製品開発と生産体制の構築
- トルコ、インドなど戦略的重要拠点における事業拡大の推進  
（トルコ、インドは持分法適用会社）

（注）2019年度より、従来「自動車電池海外」に含まれていた一部の子会社等について、「産業電池電源」にセグメントを変更しております。2018年度は、変更後の業績を記載しております。



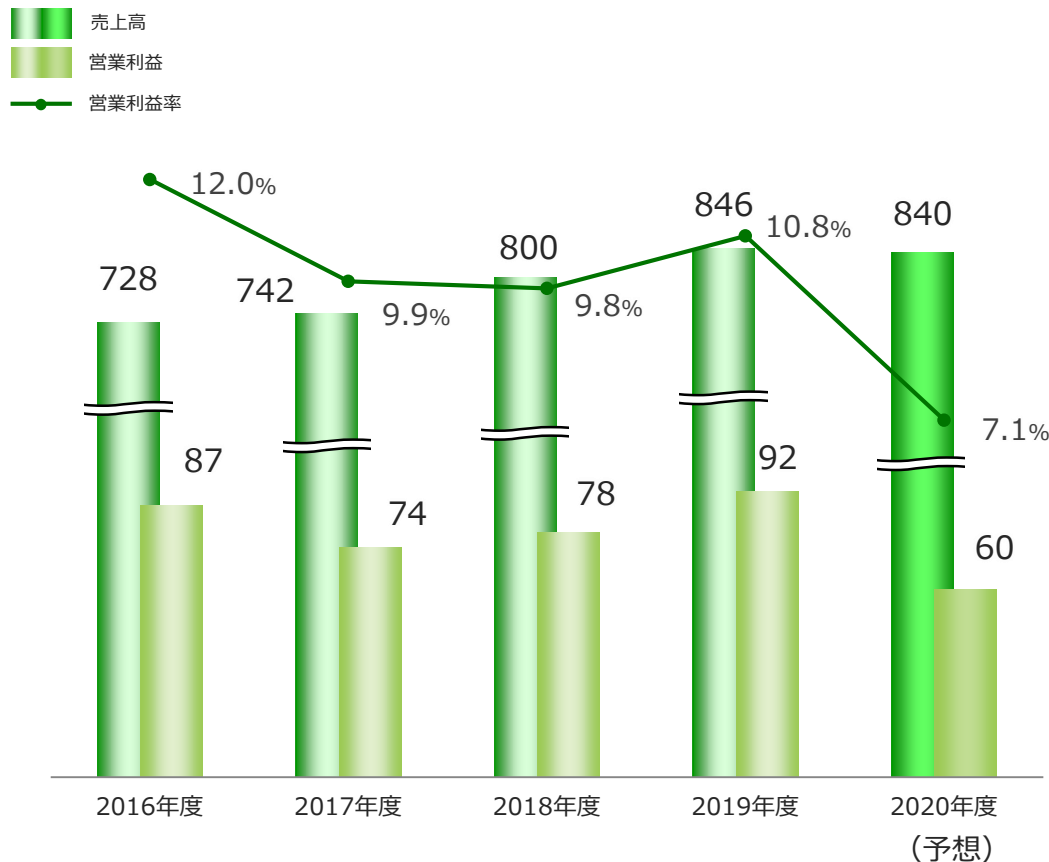
### 3. セグメント別業績 (産業電池電源)

## 産業電池電源

## 減収減益

(億円)

売上高・営業利益・利益率



### 2020年度の取り組み

- 産業用リチウムイオン電池を中心に、非常用途以外の新たな需要取り込みと収益力向上
- AI・IoTを活用した「コトづくり」の推進
- シェアやプレゼンスの低い海外市場での拡大戦略と未開拓地域での基盤づくりの推進

(注) 2019年度より、従来「自動車電池海外」に含まれていた一部の子会社等について、「産業電池電源」にセグメントを変更しております。2018年度は、変更後の業績を記載しております。

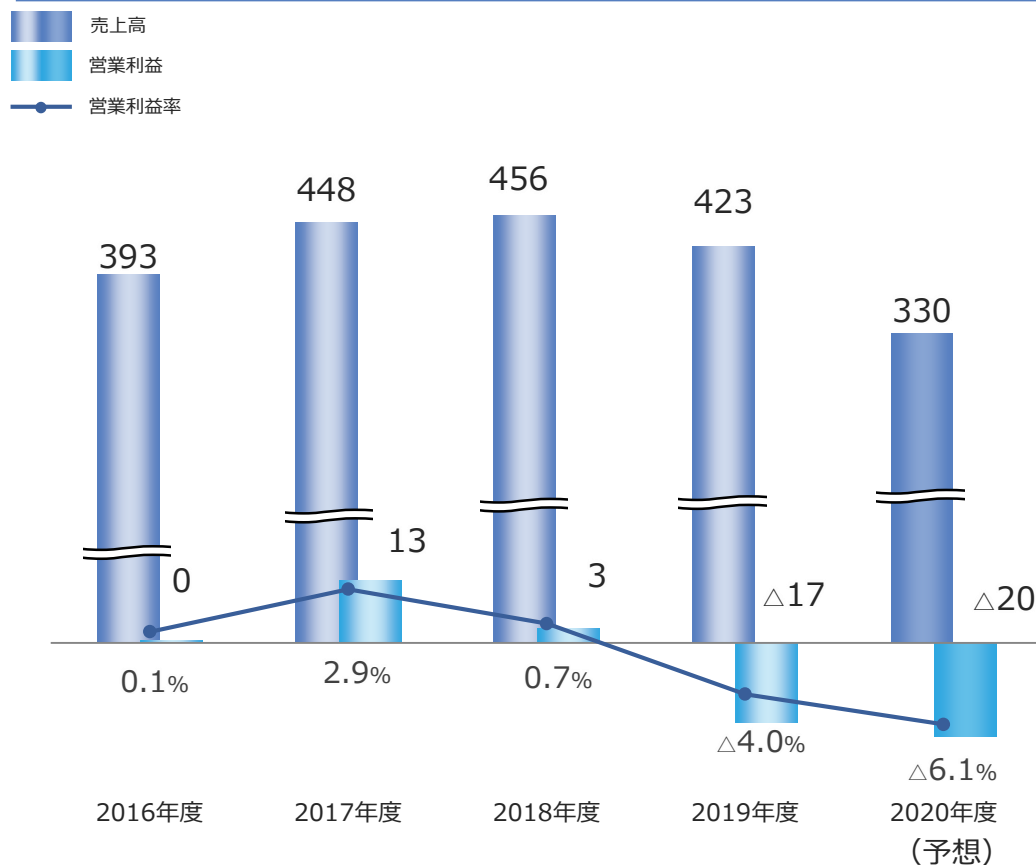
### 3. セグメント別業績（車載用リチウムイオン電池）

## 車載用リチウムイオン電池

## 減収減益

（億円）

売上高・営業利益・利益率



### 2020年度の取り組み

- HEV用リチウムイオン電池の拡販（既存顧客、新規顧客）と生産能力の拡大
- 2019年10月に稼働を開始したハンガリー工場の量産立ち上げ
- ESS市場向けリチウムイオン電池の安定供給（北海道の大規模風力案件、家庭用の卒FIT案件など）

※ESS：電力貯蔵システム（Energy Storage System）の略称。

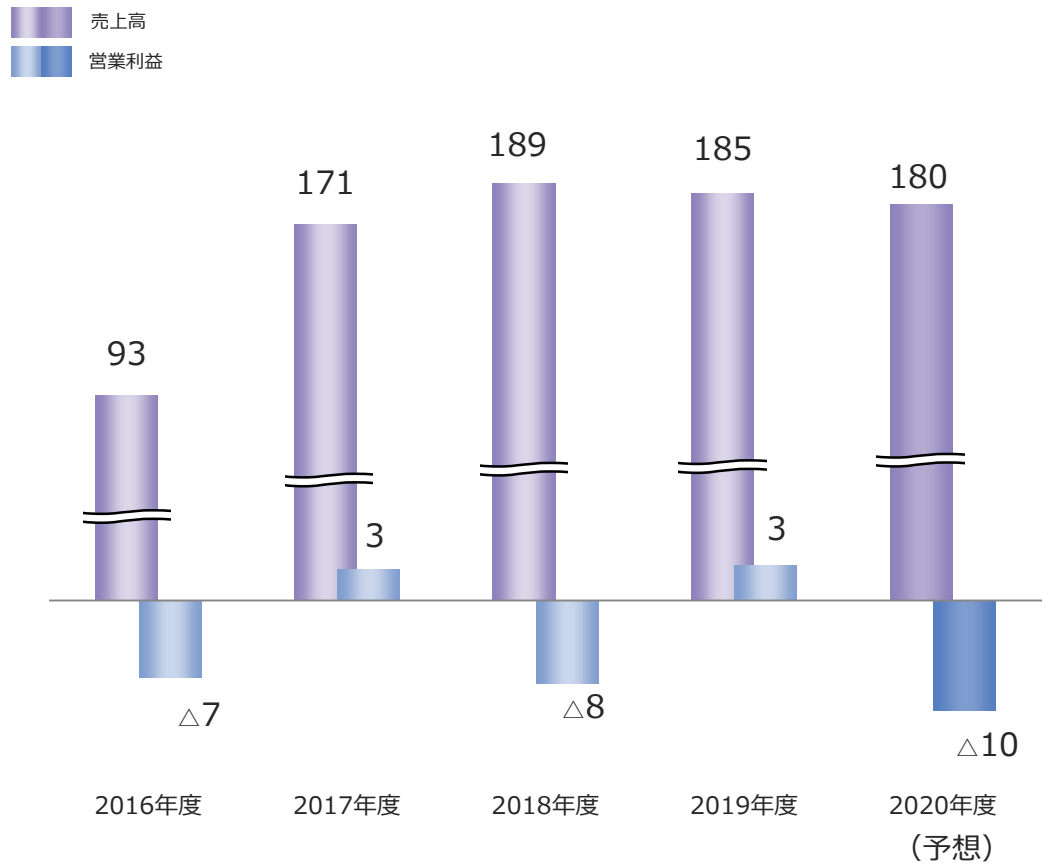
### 3. セグメント別業績 (その他)

## その他

## 減収減益

(億円)

### 売上高・営業利益



#### 2020年度の取り組み

- 潜水艦用リチウムイオン電池の安定供給
- 衛星用・航空機用リチウムイオン電池の拡販

## 4. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

		2019年度 実績	2020年度 予想	増減
<b>設備投資額</b>		182	220	+38
自動車電池	国内	22	25	+3
	海外	55	60	+5
産業電池電源		17	20	+3
車載用リチウムイオン電池		50	60	+10
その他		38	55	+17
<b>減価償却費</b>		160	170	+10
うち、車載用リチウムイオン電池		32	40	+8
<b>研究開発費</b>		95	110	+15
(売上高研究開発費率)		2.4%	3.0%	+0.6P

## コーポレート・ガバナンスの強化

### 基本的な考え方

持続的な成長および中長期的な企業価値向上を図るために、コーポレート・ガバナンスのさらなる強化、充実化

### 基本方針

1. 株主の権利を尊重し、平等性確保
2. ステークホルダーの利益を考慮し、適切に協働
3. 会社情報を適時、適切に開示し、経営の透明性確保
4. 取締役会、監査役会の役割、責務の適切な遂行
5. 持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するよう、株主・投資家との建設的な対話

### 指名・報酬委員会

2019年2月から、取締役会の任意の諮問機関として設置

#### ■ 指名委員会

- ・ 取締役候補者の選任案
- ・ 代表取締役の選任案
- ・ 後継者計画（育成計画を含む）

#### ■ 報酬委員会

- ・ 取締役の報酬決定の方針
- ・ 取締役の個人別報酬

内容を協議し、  
取締役会へ答申

#### 指名・報酬委員会の構成（計5名）

- ・ 委員長…社外取締役
- ・ 委員 …社外取締役2名、代表取締役2名

過半数が社外取締役で、委員長も社外取締役が務めることで、取締役会の機能の独立性・客観性を担保し、説明責任を強化

### 女性取締役の選任

2020年6月に、女性社外取締役を選任

- ・ 社外取締役3分の1超によるガバナンス強化
- ・ 多様性の確保

### 会計監査人の異動

同一法人による監査年数が長期にわたっていることから、会計監査人の評価・見直しを実施

- ・ 従来とは異なる視点や手法による監査の期待

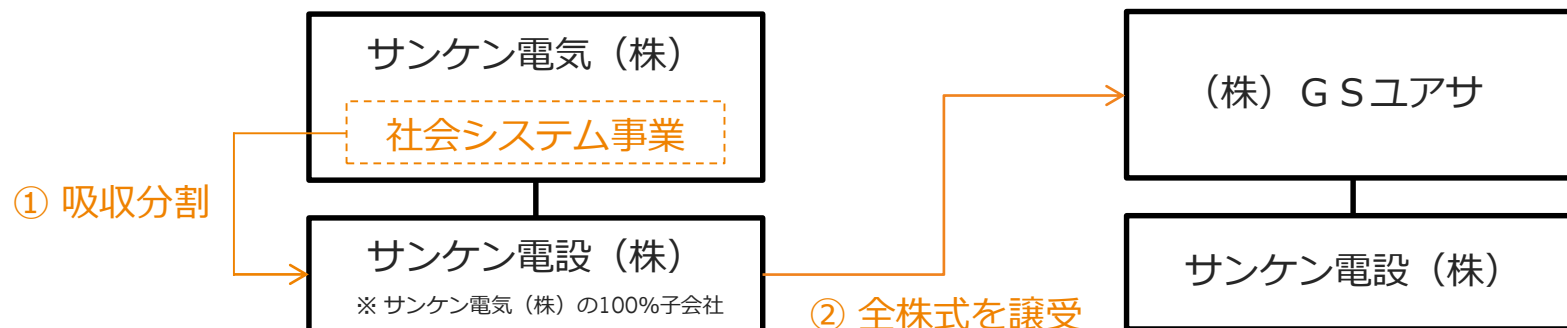
**サンケン電気（株）の社会システム事業を譲受**

## ➤ 譲受対象

### サンケン電気（株）の社会システム事業

事業内容	電源機器製品の開発、製造、販売、保守、点検、バッテリー交換等の作業及び修理、施工計画、搬入、据付、配線工事及び現地調整試験等。
売上高 (2020年3月期)	約125億円

## ➤ 譲受の方法



➤ 譲受価額 約48億円

➤ スケジュール 2020年8月4日 株式譲渡契約書締結  
2021年4月1日 本事業譲受日（予定）

## 2. 主要な取り扱い製品 (産業電池電源製品)



産業電池電源事業



産業用鉛蓄電池



産業用リチウムイオン電池・ESS※1



照明機器 蓄電池監視装置



電動車両用鉛蓄電池



直流電源装置



UPS



汎用UPS



CVCF※2インバータ



(注)複合電源用  
オプションとして



パワーコンディショナ



社会システム事業



フライホイール



VVVF※3インバータ



航空障害灯

※1 Energy Storage System エネルギー貯蔵システム

※2 Constant Voltage Constant Frequency 固定電圧固定周波数

※3 Variable Voltage Variable Frequency 可変電圧可変周波数



## ➤ 産業電池電源事業の中長期方針と課題

### 高付加価値製品・サービスの投入

- ✓ コストダウンを図った競争力のある新製品開発の投入
- ✓ 顧客価値視点でのIoTを活用した高付加価値サービスの提供

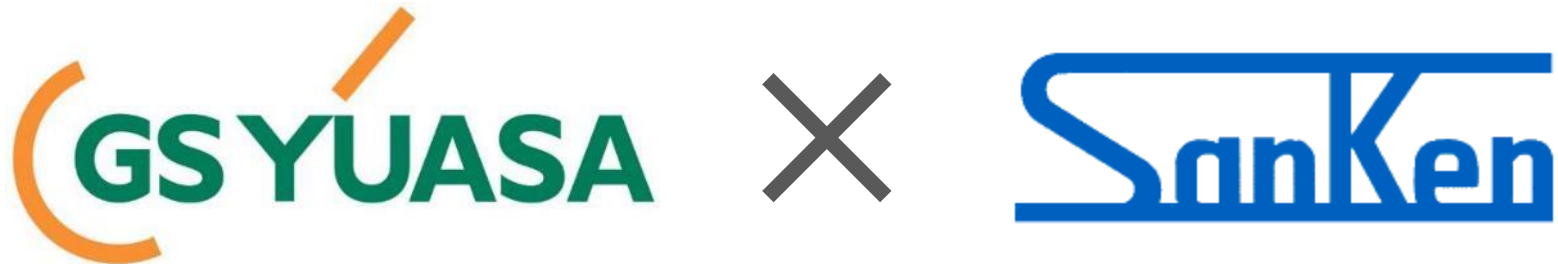


持続的な成長には既存分野における収益基盤の維持と  
新規市場における拡大が不可欠

## ➤ 産業電池電源事業を取り巻く市場環境

- ✓ IoTの普及によるデータセンターの新設・増設
- ✓ 国土強靱化政策による非常用電源の需要拡大
- ✓ 競合企業の積極的な市場参入などを背景に競争が激化

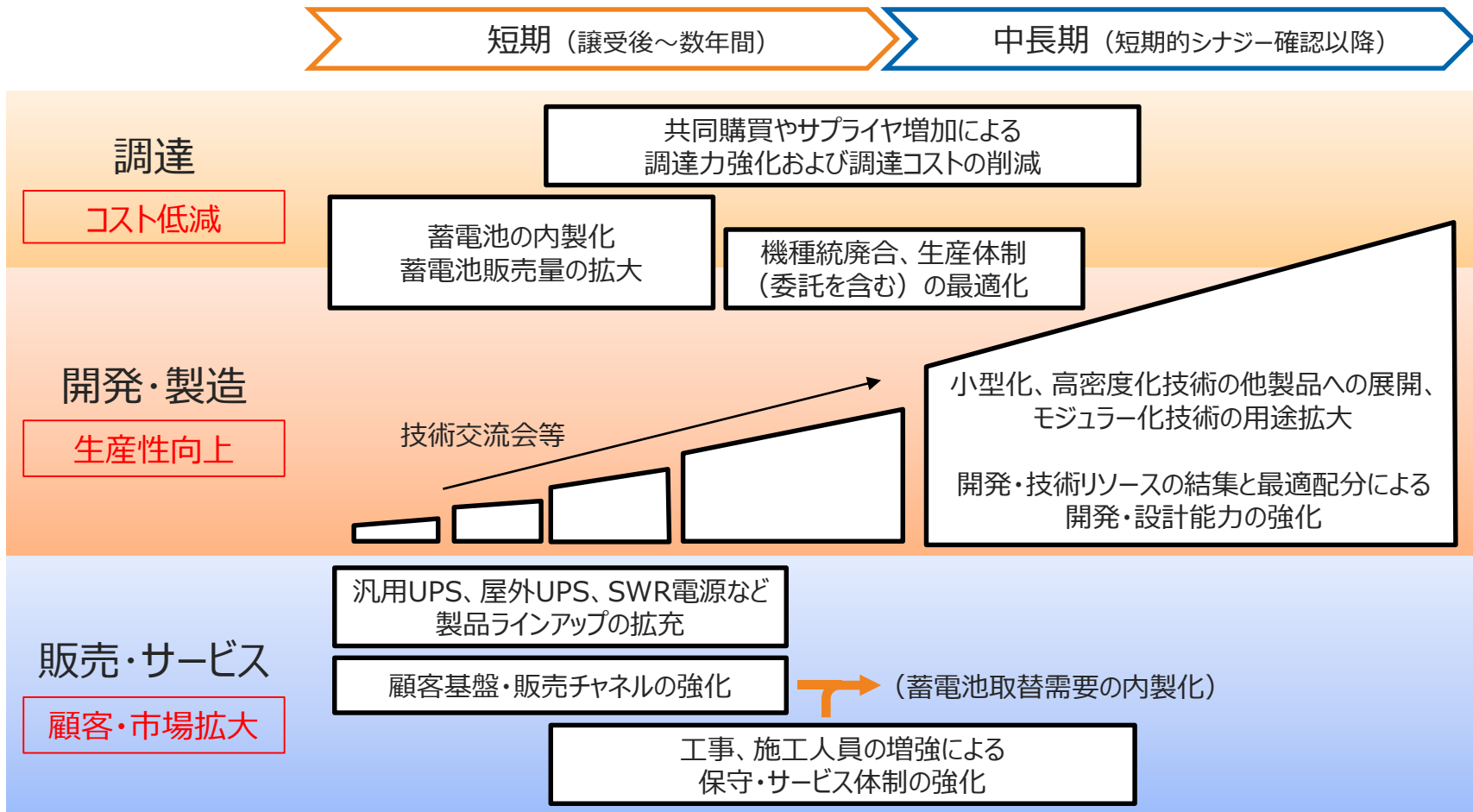
## 4. 譲受の目的



- ✓ 両社が培ってきた技術力・開発力の融合による競争力強化
- ✓ 既存分野における両社の弱点分野の補完
- ✓ 電力バックアップ用途以外の新規市場に備えて体制強化

# 5. 期待するシナジー効果

調達、開発・製造、販売・サービス面で、さまざまな短期的・中長期的シナジーを創出



## 6. 会社概要

社名	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション	サンケン電気株式会社
所在地	京都府京都市南区吉祥院西ノ庄 猪之馬場町1番地	埼玉県新座市北野三丁目6番3号
代表者の 役職・氏名	取締役社長 村尾 修	代表取締役社長 和田 節
事業内容	持株会社傘下のグループ企業全体の経営 戦略を策定・統括し、グループの企業価値の 最大化を図る。	半導体デバイス等の電子部品及び電源機 器製品の開発・製造・販売等
資本金	33,021百万円	20,896百万円
設立年月日	2004年4月1日	1946年9月5日
発行済株式数	82,714,942株	25,098,060株

※ 2020年3月31日現在

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



Creating the Future of Energy

連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

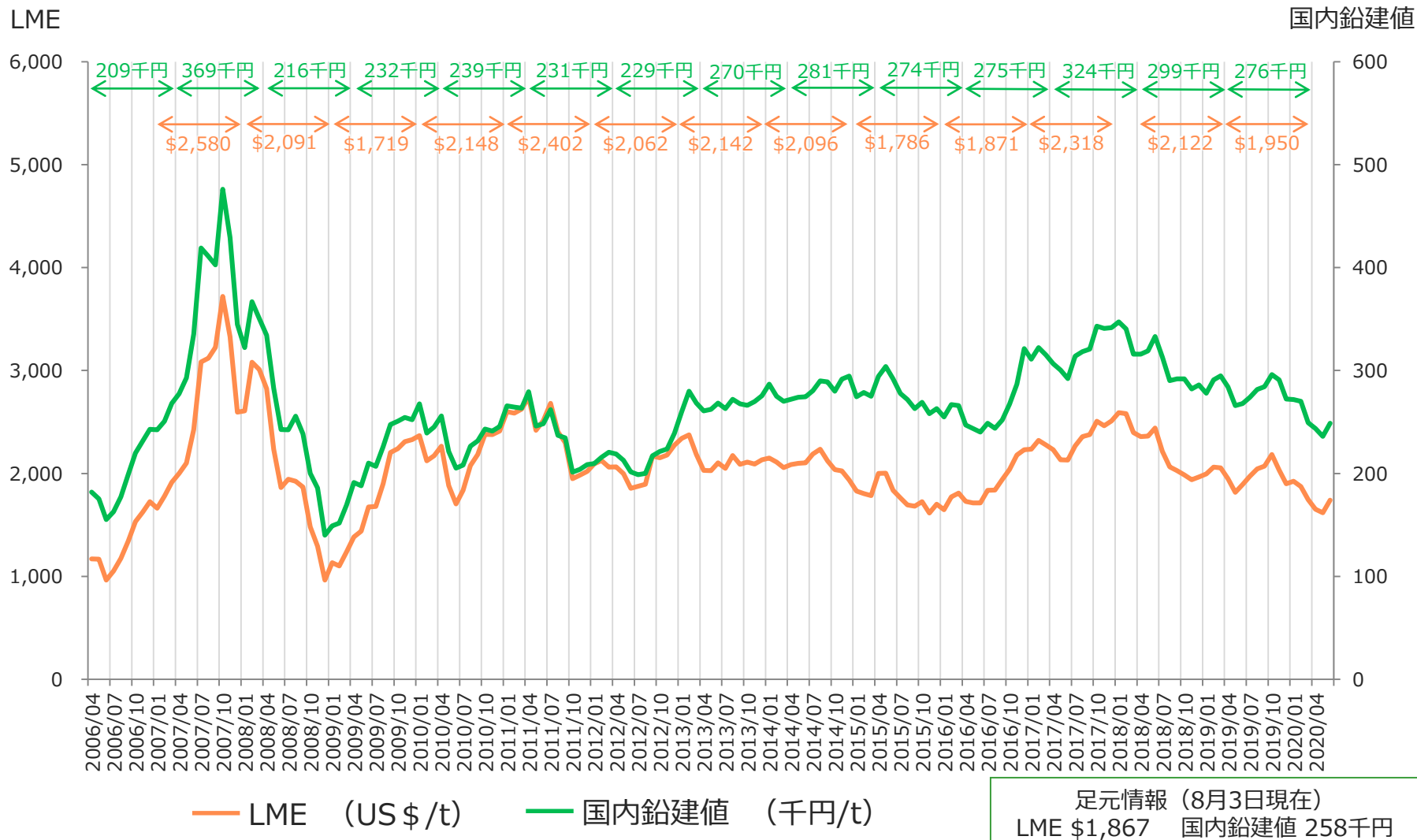
コーポレート室 (広報) 青木 裕 ・ 柿島 辰年 ・ 田中 祥太

Tel : 075-312-1214

<https://www.gs-yuasa.com/jp>

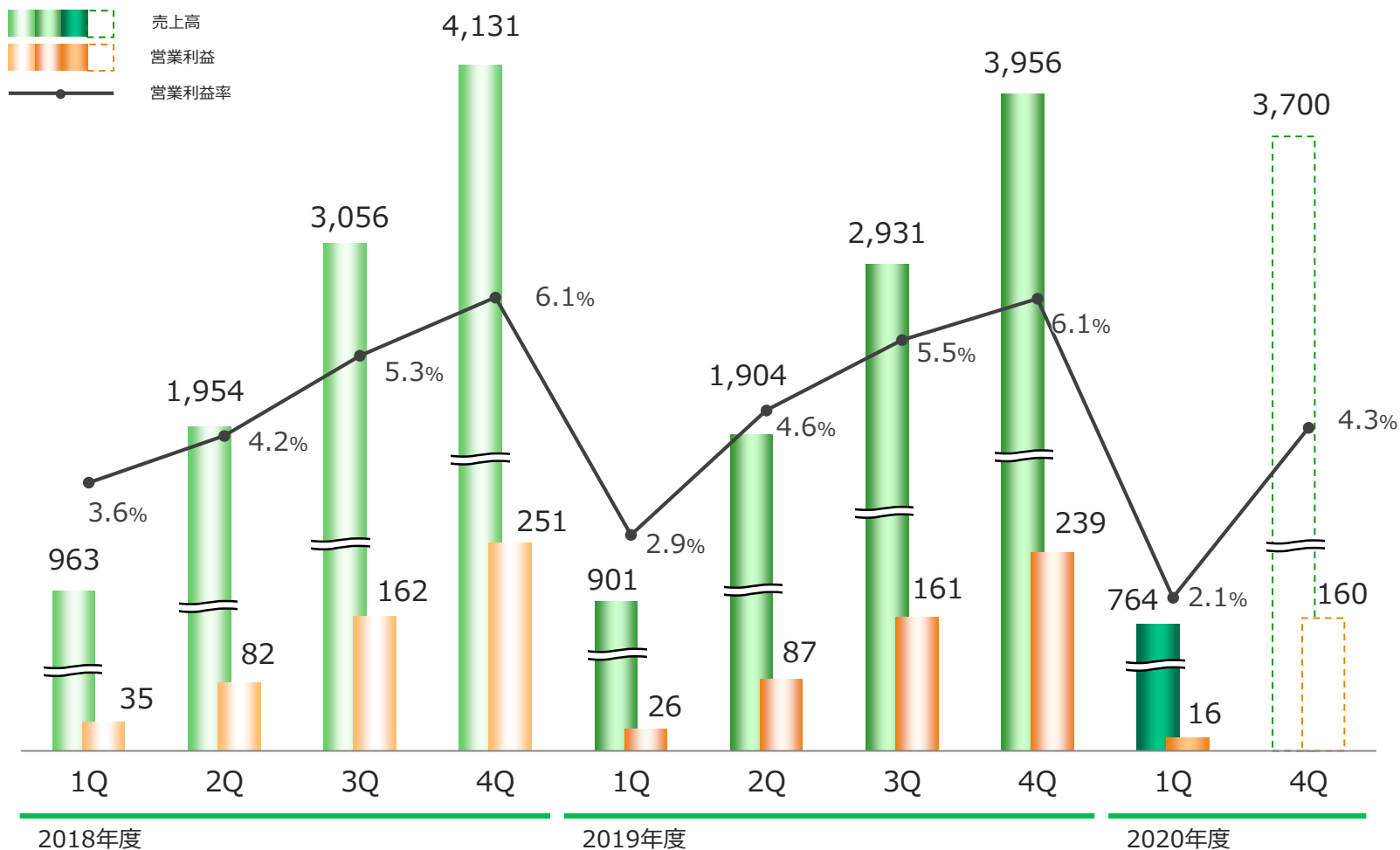
## 參考資料

## 原材料価格の推移



## 売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。